

---

# 君と私とマカロニと

プリンセス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君と私とマカロニと

### 【Nコード】

N6270Z

### 【作者名】

プリンセス

### 【あらすじ】

ただ単に思ったことを書き綴ったものです。GL注意

君は私に言った

「私たちはマカロニなんだよ。」

と

「なんで？」

私は首をかしげて聞いた。

「マカロニはね、近づきすぎるとくっ付きちゃってとれなくなるの。それにね、温度が高すぎると解けちゃうから、歯ごたえがなくなるの。」

「ふうん。」

そっけなく返す。

だって、それは

「これ以上近寄るなって意味？」

君は困ったように苦笑する。

「んっ……。あんま近寄りすぎると離れなくなるでしょ？」

私は君のほうを向き直って少しおこったような口調で言う。

「いいじゃない。何がダメなの？」

「だって、あなたも私も女同士だもん。  
きつと・・・私から離れるでしょ。」

そのとき・・・困るでしょ？」

君は少しうつむきながら哀しそうに答えた。

「・・・いらない。私は君以外要らないもの！  
大人になっても、ずつと、ずつと一緒にいるのよ。  
離れたいなら、殺して死んであげるわ。」

ゆつくりとしてそれでも刺々しい言い方をする。

すると、君が笑い出す。

「・・・君が言うつと冗談に聞こえないよ。  
でも、ありがと。」

「あら？冗談で言ったつもりはないんだけど。」

今度は二人で笑い出す。

「愛してるよ。」

「当たり前。」

マカロニのようにくっ付いてしまえばいいんだ。

君が私から離れないように。

マカロニのように溶けてしまえばいいんだ。

私が君から離れないように。

(後書き)

私のじつわというねw w

まあ、ちょっといじってるけど。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6270z/>

---

君と私とマカロニと

2011年12月20日23時47分発行